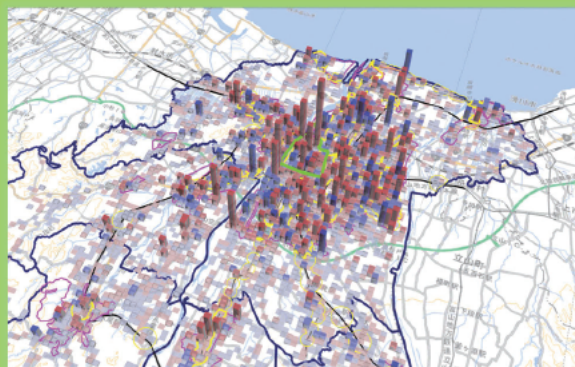


コンパクトなまちづくりによる 都市の趨勢



富山県 富山市 活力都市推進課

i-都市交流会議2020

1

1. 富山市における都市構造の分析

コンパクトなまちづくりによる都市構造の分析

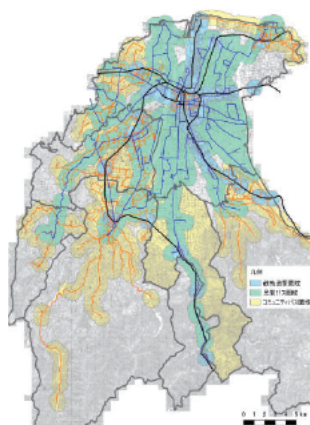
- コンパクトなまちづくりによる都市構造の変化を捉えることが必要
→H17年度からの住民基本台帳データ（個人のプロット）と他の情報（居住誘導区域や都市施設など）をGISに展開し、人口の変化・趨勢を把握・分析・可視化を進めてきた

【公共交通の利用可能な圏域人口】

【公共交通の利用可能な圏域に居住する人口及び割合（H30）】

	人口	割合
富山市	417,382	-
公共交通の利用可能な圏域	409,019	98.0%
鉄軌道+路線バス（750m圏域）	381,059	91.3%
コミュニティバス（750m圏域）	27,960	6.7%
公共交通空白地域	8,363	2.0%

（平成30年6月30日時点の住民基本台帳情報より算出）



約15年分のデータを活用し、コンパクトシティ政策により、都市構造がどのように変化してきたかを捉え、次のまちづくりにつなげる

i-都市交流会議2020

2

2. 富山市における都市のスプロール化

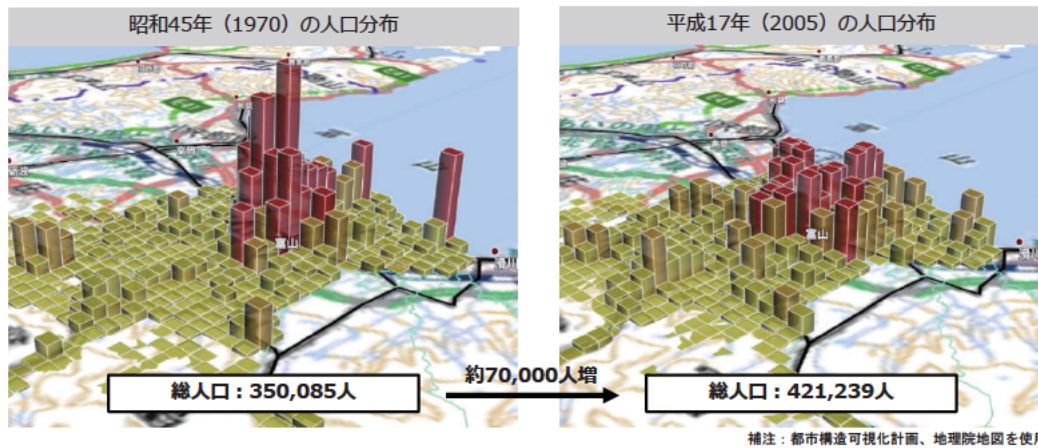
コンパクトなまちづくり以前の都市構造

■ 1970年（S45）

- ・中心市街地や各地域の拠点、公共交通沿線を中心に人口が集積

■ 2005年（H17）

- ・総人口の増加とともに、新たな居住地の形成が郊外を中心に進行
→スプロール化が進行し、市街化調整区域も含め、人口流出が顕在化

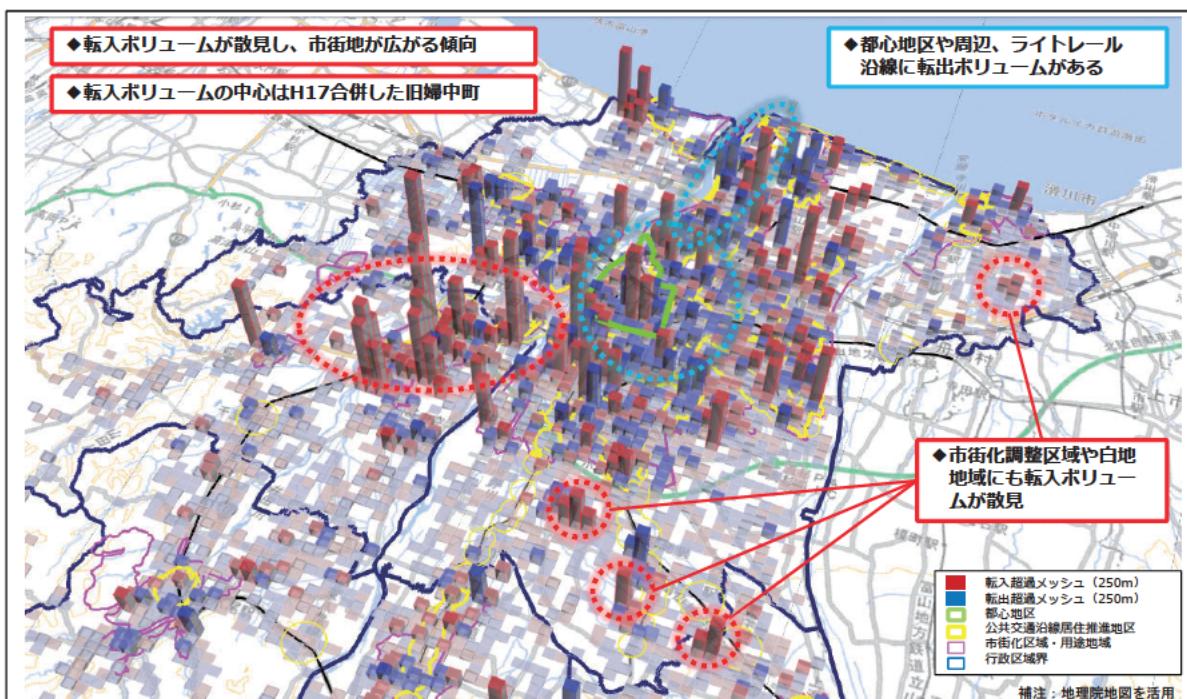


i-都市交流会議2020

3

3. コンパクトなまちづくり当初の都市構造

H18-H20における人口の社会増減の合計

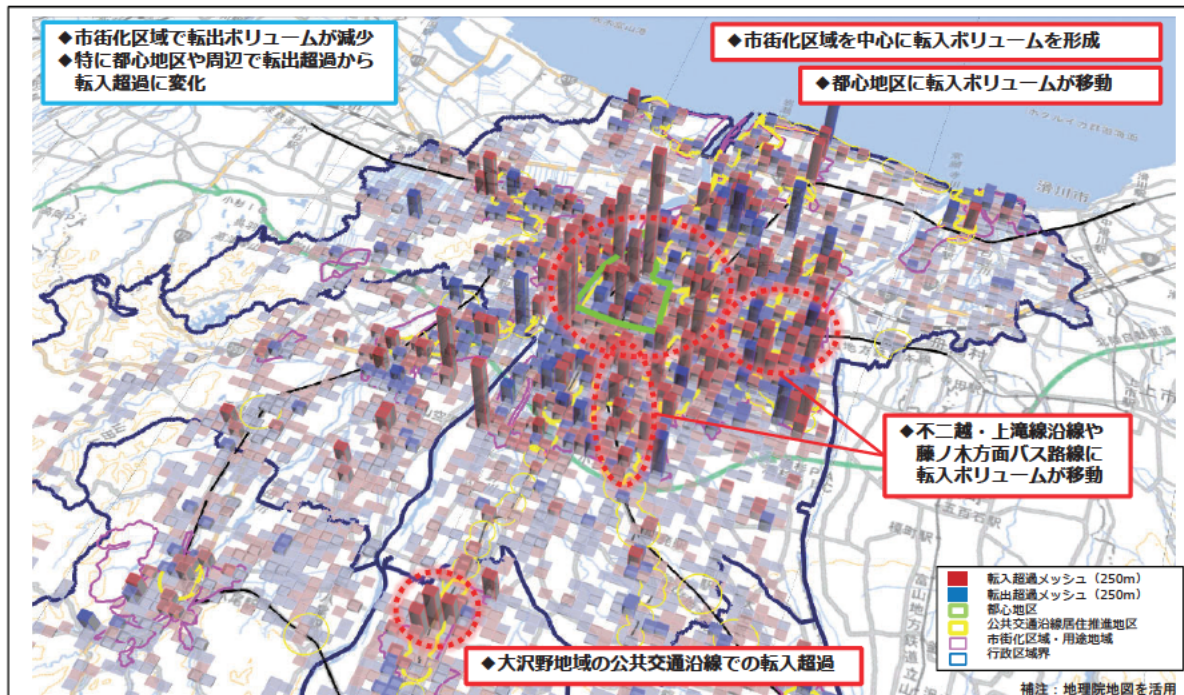


i-都市交流会議2020

4

4.コンパクトなまちづくりによる都市の変化

H29-R1における人口の社会増減の合計



i-都市交流会議2020

5

5.コンパクトなまちづくりによる人口の趨勢

「スプロールの抑制」と「公共交通沿線への居住誘導」

■市街化区域

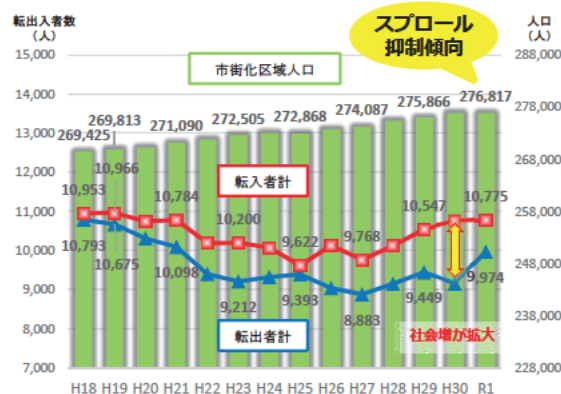
- ・H18当初は転入と転出が拮抗 → 転出抑止と転入増加（社会増が拡大）

■居住誘導区域

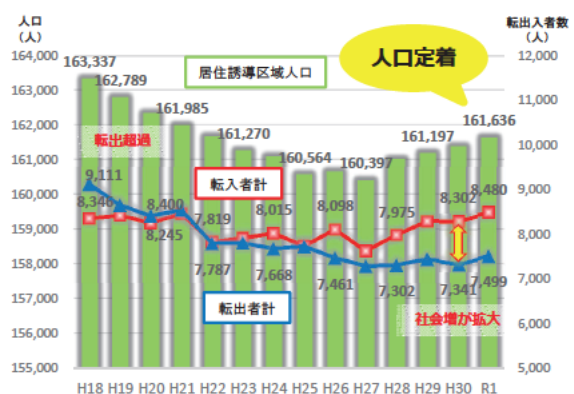
- ・H18当初は転出超過 → 転入が増加し、転出が抑制し、社会増が拡大

自然減を踏まえても人口が増加し、都市のコンパクト化の兆し

市街化区域内人口の推移



居住誘導区域内人口の推移



i-都市交流会議2020

6

6.都市構造可視化による利点・課題

都市構造可視化をより活かすために

■ 利点

- 「誰でも」「多くの情報を」「感覚的に」捉えられる。
 - 一目で起きていることが分かるので、市民や外国の方にも理解しやすい。
- 2次元で表現しきれないものを可視化して表現できる。
 - 富山市で進めてきたGISメッシュ等の可視化では、ひとつの情報を取り扱うことが限度。また、閾値の設定により、埋もれてしまうものも多かった。
 - Google Earthを活用した可視化では、ボリュームと色で複数の情報を取り扱える。

■ 課題

- Google Mapベース図の使用に関する権利や表記
 - 国土地理院地図と比べ、航空写真を利用したGoogle Mapのベース図の方がより理解しやすく、資料等にした際の見た目もよい。
 - 一方で、使用にあたっての権利関係等はGoogleのスタンスとして、利用者に委ねる形となっており、使途に応じた活用の可否に苦慮

富山市 ～路面電車南北接続～

都市の紹介

【令和2年3月21日】

富山駅高架下での路面電車南北接続

- 本市のまちづくりの大きな転換点
- 市民のライフスタイルを次のステージへ

